緑のまちあれこれ

○　堀之内貝塚での“縄文フェスティバル”も今年で15回目。開会式の挨拶に市長や教育委員長、国会議員を含め地方選を控えての、県会議員・市会議員が来賓として勢ぞろい。桜もほぼ満開で、午前中は天候に恵まれ、1000人以上の人出で賑わった。

○　コブシの花が咲き出すと桜のつぼみがふくらむ。道免き谷津の桜はほとんどが老木となり、心なしか勢いがないが、外環の工事は一向にすすまず、小塚山トンネルの上の植樹もまだまだのようだ。

○　スーパーマーケットの‘ベルクス’が3月末から改装休業、4月一杯くらいかかるのか。北国分地区は北総鉄道の開通で、バス通りの矢切から商業地域の中心が移り、マンションを含めて若い人の住居も1丁目から4丁目、堀之内（旧北国分町）へと変わった。

外環が機能するようになるのはいつのことかわからないが、堀之内貝塚の緑と小塚山の森が住民にとって貴重ないこいの場となることだけは確かである。

4月は地方選挙の月、市川でも県会議員と市会議員の選挙が行われる。国政選挙を含め民主主義というものを考える。民主主義といっても、遠くギリシアの都市国家のような直接民主主義ではなく、近代国家では、議員制の間接民主主義でしかない。民主主義とは、国民の意思を反映した法治主義の国家体制であるはずなのだが、小選挙区制では死に票が多く出る。そうかといって中選挙区制では金がかかりすぎる。比例代表性というものが加味されてはいるが、国民の総意を国会なり行政府は正確に反映しているのかどうか。議員のほとんどが二世、三世議員に占められ、採決器械の数合わせでしかない存在になっていることを、国民のすべてが知っている。市会議員から県会議員、そして国会議員になるのが定番で、その地方議員選挙が始まろうとしている。選挙人年齢を18歳に下げようとする動きもある。どこまで数合わせの民主主義で政治が左右されてゆくのだろうか。

■編集後記■

今月号がいつもの号とは大きく趣を変えたことに気づかれた方がおられただろうか。森の音楽会が一時中止となって、表紙を飾っていたポスターがなくなったこと。それとは直接関連はないが、緑のまち合唱団で永らくご指導いただいた星野さんが引退され、これからは新谷さんに移ることになった。時代が移れば変化するのが当然といえば当然だが、北国分が少しでも良くなるように変わることを切実に思うこのごろである。

緑のまち
―北国分だより―
第113号　2015.4.15 発行

編集　北国分外環対策協議会
市川市北国分 2-29-13　越田方
Tel 047-372-8998
www.midorinomachi.net

小塚山 森の音楽会についてのお知らせ

今年は休止します

昨年の音楽会は、五月晴れに恵まれていたのでしたが、森の中で開催することができませんでした。

小塚山に営巣した‘稀少種’の野鳥が、抱卵期を迎え、人の声や楽器の音などに敏感に反応し、抱卵をやめてしまう可能性があるとのことでした。

人と自然との共生の立場から、‘稀少種’の野鳥保護のために、室内での演奏会にいたしました。

昨年誕生した‘稀少種’の野鳥は無事巣立ったと聞いています。けれども小塚山で音楽会をするには、まだ難問があります。野鳥は一度営巣すると数年は同じ場所にするのだそうです。

森を守ることは、森の生きものを守ることでもあります。森を守るために始めた森の音楽会を今後どうしたらよいか、昨年8月、北国分外環対策協議会において話し合いました。

○　野鳥が巣立った秋ならば音楽会が可能かどうか。1年間、森の自然を観察する

○　1年間各自熟慮し、次回総会で話し合う

23年前、“小塚山の素晴らしい 自然を、外環建設による破壊から守りたい”という住民の熱い想いから始まった森の音楽会。北国分外環対策協議会の活動として多くの皆様に支えられ、昨年まで継続してまいりました。小塚山は部分的に破壊されてしまいましたが残された大切な自然環境を守るために力をあわせてまいりましょう。

地域の春の催しものとして、多くの方が参加され楽しんで下さいました森の音楽会を今年休止することにいたしました。

森の音楽会を提案され、ご尽力下さいました萩原法子さん、音楽会の経費のために絵画を描かれ長期間カンパしてくださいました竹内庸悦画伯、ご協力いただきました多くの皆様、ありがとうございました。　（三好美智子）

春に予定していました野草を観る会は、都合により見送ることにいたしました。

星野さん　ありがとうございました

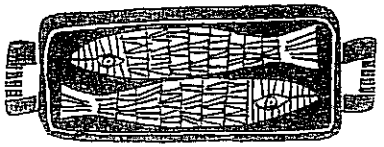
緑のまち合唱団で、今まで指導していただいた星野宣良さんが、体調や転居などにより、2月で引退されました。月1回でしたが、お休みすることもなく 20 余年、日本の歌、世界の歌、そして私達の創作曲など、たくさんの歌を教えていただきました。

森の音楽会では、ずっと実行委員長を引き受けていただきました。3 月には、以前合唱団に入っていた人も含めて、お別れの会を行い、手作りの感謝状を贈りました。

合唱団は、ピアノ伴奏の新谷みゆきさんが指導もやってくださることになり、月1回の練習を続けていきます。

一緒に歌ってくださる方、大募集です。

連絡先：佐々木　371-9528



さよなら原発　市川パレード

松林　マサ子

私は、友人と3月8日、第4回“3.11 さよなら原発　被災地復興支援　市川パレード”に参加してきました。このパレードのアッピールには、「私たちは 2011 年3月 11 日東北地方をおそったあの大震災、そして福島原発の大事故を経験しました。私たちはこの震災、事故を忘れないために集会をおこないました」とありました。

雨もあがった大洲公園に 250 人が集まりました。原発再稼動問題のお話、生業裁判原告の方の訴えや、福島の方の厳しい実態が報告されました。また今回は、大学生の東北支援物産の紹介があり、新しい広がりも感じました。さらに多くの若者の参加に期待しています。

その後市川駅まで自作のプラカードや鈴、太鼓、うちわ、風船を持って、元気よくパレードしました。うれしいことに沿道では手を振ってくれたり、コールを口ずさんでくれたり、スマホなどで写真をとっていた人もいたと聞きました。

日常生活に追われ、忘れかけていた悲惨な原発事故を思い出させ、意識させてくれる集会でした。市川の“脱原発”の希望の灯を消すことなく、さらにその灯を大きく強くしていくために、来年も、この集会が続けられることを願っています。

第2回外環工事に関する質問会　報告

佐々木　陽子

1月 15 日、外環松戸相談所において外環工事に関する質問会を行いました。当日は首都国道事務所と市川市外環推進課の方が出席し、住民9人が参加しました。

昨年7月の第1回の質問会では、閉鎖された生活道路（市道）について質問や要望が出されました。

○とても不便で困っている。
○早く替わりの道を造ってほしい
○歩道橋にはエレベーターがほしい
○階段を両方向に付けてほしい

今回の質問会では、歩道橋について、具体的にどんなものになるか質問しました。

○時期については出来るだけ早く造るということで、はっきりわかりませんでした。

○歩道橋の長さは、上り下り合わせて 187m、それに沿ってできるスロープは 250m ということでした。数字を聞いたときは漠然とした感じでしたが、よく考えてみるととても渡れるような歩道橋ではないと思いました。特に高齢者や自転車などは通れない歩道橋ではないでしょうか。

○階段スロープの位置は、松戸方面に取り付けることになっており、反対側（北国分方面）に付けると、さらに 80m 長くなるとのことでした。

その場で拡大コピーの完成図をいただきましたが、詳しいことはわかりませんでしたので、具体的にわかる立体図のようなものを作ってほしいと要望しました。

その他環境問題についても要望しました。

「工事中の騒音や振動がひどい状態である。振動については測定しているようではあるが、静かな時を選んでいるのではないか」と、小塚山付近の住民から発言がありました。そして「常時振動計を設置し、正しい測定をしてほしい」と要望しました。市川市の環境課に、しっかり伝えていただくよう申し入れました。

外環工事には、まだまだ多くの問題があります。道路が完成したらもう終わりではなく、地域全体の大気汚染、生活道路への車の進入など、さまざまな問題が予想されます。引き続き第3回質問会を継続していきたいと考えています。

《私は戦争を忘れない》6

小さな村の小さな悲劇

岸野　明子

戦争が終わった昭和20年8月、当時私は‘天の橋立’のある丹後の小さな村に住んでいました。戦時中、空襲警報のサイレンが鳴り、B29が飛来してきても焼夷弾を落とされることもなく、その点では恵まれていました。ただそのような田舎でも「戦争さえなければ…」と思われる出来事がありました。思春期だった私が、今も忘れずにいるその一部を書いてみようと思います。

戦争が始まり、暫らくすると、近くの大江山でニッケルが採れることが判明し、すぐに東京の企業が村はずれに精錬所を造りました。そしてそこに工員として徴用されたのは、京阪神の都市部で兵役を免除された方たちでした。

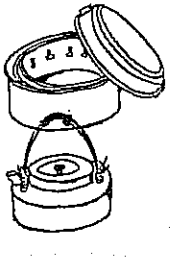
にわか作りの小さく粗末な社宅が105戸余り、家族ともども入居してから1年半後に終戦。工場は閉鎖され、経営者は、早々に幹部数人と東京に帰ってしまったのです。馴染みの少ない土地で、突然無収入となった‘社宅の人’の悲劇はこうして始まりました。

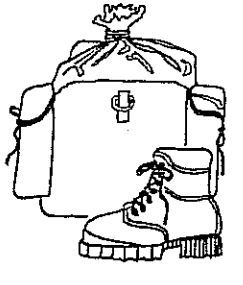
山の斜面にへばりついた小さな農村では、働く場所もなく、近隣の村でも同じ有様。そこで生きていくためには‘ヤミ屋’か‘タケノコ生活’をする以外ありませんでした。結果、結核になって亡くなった方が、一二年で十数人、その中には20歳前後という若い命もありました。また、夜逃げ同然に去っていった者、自殺した人も二三人いました。

さらには、‘畑が荒らされた’、‘弁当泥棒が出た’などというと、そのたびに村の人から疑われる始末。ほとんどの家庭で子供を進学させることもできず、都会に働きに出し、やっと‘生活’を支えることができたのです。

東京大空襲や、広島、長崎の原爆投下に比べれば小さな出来事かも知れませんが、‘亡くなった命’‘流した涙’‘傷ついた心’に、大小の違いはないと思います。

戦争は人災です。人災なら人の英知でもって阻止できるのではないでしょうか。一緒に考えてみてください。





戦後70年に思う

佐々木　陽子

以前は50年ひと昔といわれたが、今の時代の流れでは、10年ひと昔でしょう。まして70年前といったら、今の若者にとっては大昔と思われていることと思います。しかし、あの時、戦争中を生き抜いた人たちにとっては、忘れたくてもわすれられない時代だったでしょう。

私は、戦後生まれで、戦争体験はありませんが、父は戦争に行きなんとか帰ってきました。おじさんは戦死して写真だけが残されていました。父や母のその頃の体験はあまり聞いていません。母が軍需工場で働き、「その時に目が悪くなった」と言っていたことを思い出しました。父や母の世代は70年前は青春まっただ中。どんな生活だったのかはテレビやドラマや本などで少しはわかっていますが、毎日毎日、生きるか死ぬかの生活、食べる物もない生活を、私はほんとうにはわからないのかも知れません。

日本は、戦後70年、戦争をしませんでした。平和を守ってきました。それはとても素晴らしいことで、幸せな時代だったと思います。世界中のあちらこちらで内戦などが起きて、多くの人が亡くなっているニュースを毎日聞かされるこの頃。本当に悲しくなってしまいます。政府は自衛隊を海外へ派兵できる法律をつくろうとしています。本当に心配です。日本が、この先ずっと平和な国であるように願い、そのために何をしたら良いのかを考えていきたいと思っています。

わたしも　ひとこと

今年は終戦70年の区切りの年。さまざまな記念行事が行われることになるのだろうが、平和へのお祭り騒ぎに終わってはならない。新憲法で戦争放棄を決意したのは、国民の総意だった。いまその人たちは老齢化し（少なくとも80歳以上になっている）、戦争をまったく知らない人たちが70歳になったということなのだ。

戦争の非人間的なむごさを知らない人が、国のために（それも戦時中と同じ意味で）世界平和に貢献するためという理由で、アメリカとの安保体制を強化して、海外派兵への準備をしている。憲法改正も主眼は第九条の戦争放棄条項の廃止となれば、戦前への逆戻りになる。有識者が反対するのは本当に戦争を知らない人たちが経済的利益だけで、日本の将来を考えていることへの切実な危惧なのだ。　(K)

“里山俳句会”の人たち

三好　ひろし

“結いの会”のお誘いを受け、「この指とまれ」と、スタートした“里山俳句会”。この5月で18年目を迎えます。「みんな先生、みんな生徒」が、モットーです。

毎月第4土曜、1時より、老人いこいの家で定例句会を開いています。3句持ち寄り、無記名の句を互選するのが基本です。みんな定刻に顔が揃い、和気あいあいと句会は始まります。

俳句づくりの良いところは、四季の移り変わり、身のまわりの自然、日頃の暮らしに注意深く心を配るようになることです。

俳句は、ペン一本、手帳一冊あれば作れます。皆様の“里山俳句会”へのご参加をお待ちしています。

“里山俳句会”の人たちの句

犬ふぐりさらりと会釈かわしけり　石川みさ子
下萌や　平和夢みしアンネの記　井澤　禎子
雨上がり　ぐんと色増す花海棠　伊藤　政代
お水とり秘事は見えねど火は燃ゆる　宇佐美てつ子
戦争をしない日本　梅古木　岡川　幸子
やれ嬉し　今年も咲きし老い椿　小野てる子
やはり春どう見ても春　浮かりひょん　笹沼　裕司
里山の芽吹きを囃す　風よ陽よ　山本　愛子

堀之内縄文まつり
野に炊けば縄文あさり炎（ほ）の男　三好ひろし
遺跡掘る男の髯よ　風光る　同

＊浮かりひょん　うっかりしているさま

探鳥会　報告

日　時：平成27年2月8日（日）
天　候：曇り
参加者：鈴木　飯山　鈴木　中島　菅野　佐々木
島田　萩原　三好　越田　村岡　計11人
確認された鳥：ヒドリガモ　カルガモ　ハシビロガモ　コガモ
オナガガモ　キンクロハジロ　ミコアイサ　キジバト
コサギ　カワセミ　コゲラ　アカゲラ　モズ
カケス　オナガ　ハシボソガラス　ハシブトガラス
ヤマガラ　シジュウガラ　ヒヨドリ　エナガ　ウグイス
メジロ　ムクドリ　シロハラ　ツグミ　ジョウビタキ
スズメ　ハクセキレイ　シメ　計30種
コメント：雨が予報されており、まずは降るまでと始めましたが、終了時までなんとか降らず、鳥も予想以上の30種も出現し。みな大いに楽しみました。

次　回　4月29日（祝）　雨天中止
集合　小塚山あずまや　10時
解散　じゅんさい池　12時

バードウオッチング

菅野　順子

前夜の雨も上がり小塚山の小道は“枯葉の絨毯”になり、散策するには程好いクッションです。忙しい生活から抜け出して、緑と小鳥の鳴き声が感じられる身近な場所へ出かけ、バードウオッチングをする。なんと幸福なことでしょう。これも“平和”であるからこそ出来る体験であり、子や孫たちのためにも、かけがえのない平和を、そして地域の自然環境を守ってあげたいと思いました。「モズはメジロの鳴き声を真似てその近くに隠れ、エサの横取りをすることがあるんです」。村岡先生の話は、私達の知らない世界へと案内してくれます。

初めて目にした鳥の名と、その姿が一致せず、肉眼では捕らえられず、困っていると、野鳥本を手にして説明して下さる方がいました。バードウオッチングの醍醐味は静寂な中で、人が一生懸命、小さな生きものを探し、その探し物をやっと発見した時の喜びなのでしょうね。皆様のご参加をお待ちしています。